

“わが家の顔”に
ふさわしい、しつらえ

パツと見たときに感じがいいな、ステキだなと思ったら、そのイメージはそう簡単に変わりません。

人の第一印象は顔や全体の雰囲気から数秒で決まり、その印象は後々の評価や好感度にも大きく影響するとされています。

それは、住まいの印象でも同じことが言えます。

グランドメゾンでは、
外観やエントランスといった

“マンション全体の顔”はもちろんのこと、
“わが家の顔”である住戸の玄関まわりを大切に考え、
玄関ポーチやコリドーに細かな工夫を凝らしています。

意外と注目されることのないスペースですが、
毎日出入りする家族にとってはもちろんのこと、
ゲストをお出迎えする場としても重要な空間です。

人が表情や身だしなみ、醸し出す雰囲気気を遣うように、
玄関まわりのしつらえにも配慮することで、
「邸」邸にふさわしい「顔」を創り上げています。

今回は玄関ポーチ&コリドーに着目し、考察していきます。

*コリドー：廊下、回廊、通路を意味する建築用語。
本記事ではマンションの共用廊下を指しています。

アルコーブを間接照明のやわらかい光でふちどり、
凛とした迎賓の佇まいを演出した「グランドメゾン
ザ・大塚(福岡県)」。明るさを抑えた落ち着いた雰囲気
の空間に各住戸の号数表示を光で浮かび上がら
せ、印象的に仕上げています。

107

「一つひとつの住まいが集まった『住宅集合』の発想を原点に、『わが家らしさ』を表現できる玄関まわりをご提案しています。」(伊藤)



「わが家の顔」として
家族やゲストを迎える場

「玄関まわりは住まいの第一印象を決める重要なポイントであり、『わが家の顔』にふさわしい品格のあるしつらえが求められます」(市間)

「住宅メーカーである積水ハウスがつくっているのは、単なる建物としての『集合住宅』ではなく、『一人ひとりの想いを形にした住まいの集まり』住宅集合です。玄関まわりはただの出入り口ではなく、邸宅らしさを演出する場だと考えています」(伊藤)

「また玄関ポーチだけでなく、そこへと誘う



スロウアベニューと名づけられた、GM薬院の廊下。赤レンガの壁とプラケット照明が並んだ様子は、邸宅が連なる街並みのような印象をもたらす、歩く人の目を楽ませてくれます。(GM薬院/福岡県)



玄関ドアとともに廊下に面した居室もセットバックし、大きな玄関ポーチを創出。廊下の奥にもう一本廊下があるようなつくりになるため、行き交う人の気配や視線が気になりません。(GM薬院/福岡県)

「玄関は廊下から歩奥に下がったところに設けられることが多いですね。」

「そのような凹ませた空間のことを専門用語ではアルコーブと言いますが、玄関前にアルコーブを設けることで、パッとドアを開けたときに廊下を歩いている人とぶつかるといった予期せぬ衝突を避けることができます」(市間)

「アルコーブのない玄関は、戸建て住宅でたとえれば、玄関を開けたら目の前が道路みたいなもの。それでは危険ですよ」(伊藤)

「それに、プライバシーの問題もあります。たとえば廊下に面して部屋の扉がズバリと並んだホテルで、物音や人の足音が気になると

「いった経験がされたことのある方も多いのではないのでしょうか。廊下と玄関の間に緩衝帯としてアルコーブを設けることで、人の気配を感じにくくなります」(末崎)

「不特定多数の人が一時的に滞在するホテルと、決まった住まい手が日常的に暮らす住



外廊下に面した玄関ポーチ。風雨の影響を受けないようにしっかりと奥行きのあるアルコーブですが、庇や門構えが白く、隣との境界を閉じずに光をゆるやかに仕切っていることで、閉塞感がありません。(GM東海岸南/神奈川県)



玄関ポーチの壁・天井を玄関扉と同じ意匠で仕上げることで、一体感を生み出しました。落ち着いたトーンの木目調素材で囲まれた玄関ポーチは、重厚感漂う空間となっています。(GM池下サタワ/愛知県)

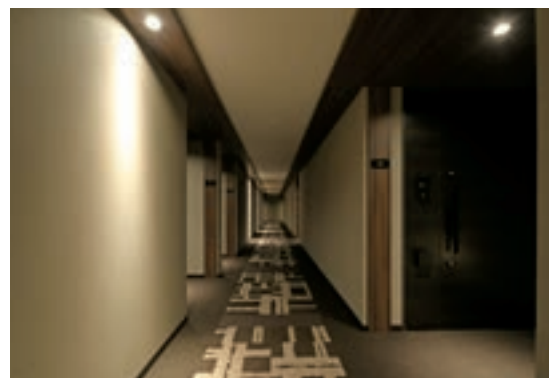
まわりの景色や立地環境の魅力を引き出すしつらえによって、いつもの暮らしにさり気なく彩りを添えられる空間に。」(末崎)



住まう人の個性や人柄が
感じられる玄関まわり

「夜、わが家に帰ってきたらホッとさせる心地よさがある。そして朝には『さあ、今日も一日頑張るぞ』と気持ちよく出掛けていける。毎日のON/OFFの切り替えにも重要な場ですね」(伊藤)

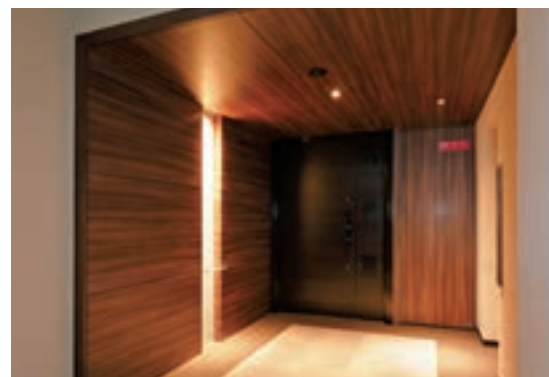
「それに玄関は家族だけでなくお客様も迎える場所です。ゲストをお招きしたとき、迎賓にふさわしい雰囲気を出せるようにしています。アルコーブのある玄関ポーチは図面だけ見るとただの凹みのように思えるかもしれませんが、実はとても大きな存在意義があり、細かい配慮を積み重ねて創り上げているんですよ」(末崎)



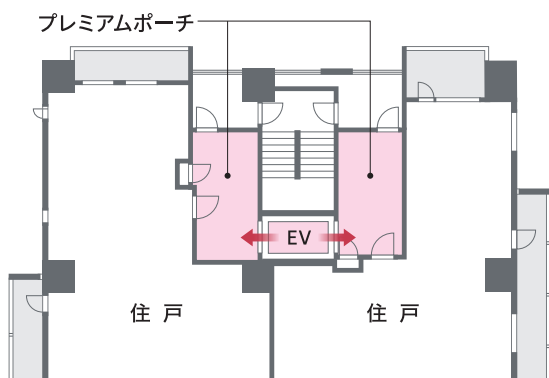
アルコーブとダウンライトの生み出す陰影が空間に豊かな表情をもたらす、上質感のある廊下。足音にも配慮したカーペット仕上げにしています。(GM浄水ガーデンシティフォレストゲートI/福岡県)



玄関ポーチの前に設けられた扉付きサイクルポート。自転車はもちろんのこと、スポーツ・アウトドア用品などで使うものを家の中で持ち込むことなく収納しておけます。(GM鳥飼武番館/福岡県)



2WAYエレベーターの採用により『わが家の専有空間』となるプレミアムポーチを実現。大きな空間ですが木調パネルで境界を示し、門構えのような役割を持たせています。(GM草香江プレイス/福岡県)



2方向に出入り口を設けた2WAYエレベーターを建物の中央に配置したプラン例。自宅側のドアのみが開くようにすることで、自分専用のプライベートスペースを実現しています。

「すべてに共通するのは、GMとしての品格を備えた空間であること。その上で、重厚感を演出するの、明るく爽やかな雰囲気にするのか、そこに住まう方の暮らしをイメージしながら作っています」(市間)

「形状・仕上げ・照明などさまざまな要素があり、それぞれの組み合わせによっても雰囲気が変わります。たとえば形状では、深く奥行きのあるアルコーブにすることで家の構えとしての風格をもたらしたり、ときには門扉をつけて独立性を高めることもあります」(末崎)

「仕上げで変化をつける場合は、玄関ポーチ

「入口にゲートのように木目調パネルを設置したり、素材に統一感を持たせながら床の柄や色を変えたりしています」(伊藤)

「統一感や連続性は大事です。エントランスから玄関に至るまでの中間領域の流れを断ち切るのではなく、ゆるやかなつながりを感じられるように配慮しています」(末崎)

「戸建て住宅では表札で個性を演出される場合もありますが、マンションではどうなのでしょう」(市間)

「近年、表札を掲げる方は減っているという印象を受けます。そこで、表札代わりとなる部屋の号数表示サインのデザインにもこだわっています。意匠性を高めながらも、しっかりと情報が伝わらなければいけないので、悩むこ

「他人の目や気配を気にしながら暮らすのは避けたいですし、ほかの人の生活感が垣間見えてしまうのも気分がいいものではないですね」(伊藤)

「そこで配慮の一つとして、玄関だけでなく廊下側の居室も全体的にセットバックして花台やポーチなどの緩衝帯を設けることもありますね。プライバシー面でも安心して暮らせる住まいは、お客様からもご好評いただいております」(末崎)

「また音や視線だけでなく、気持ちの緩衝帯も大切なもの。帰宅時には街からアプローチ、

ともあります。たとえば号数を立体的に切り出したプレートに斜め上から照明を当てると、影が大きくできて判読しにくくなってしまう。それならばベースは透明で表面だけ色をついた素材にしようか……といったことを検証しながら進めていくのです」(末崎)

「お客様もあまり意識されていないところですが、設計段階でそんな細かいところまで考えて作り込んでいくんですよ」(伊藤)

「また、ニッチや花台、正月飾りなどを掛けられるセレモニーフックなど、わが家らしさを表現できるような仕掛けを設けることもあります」(市間)

「入居後に訪問してみると、自由な発想で活用されている方が多いんですよ。お子様が描いた絵を飾られていたり、クリスマスリースなどで季節感を演出されていたり、自然と住まう方の個性が表れるので、住民同士の交流のきっかけにもなっていますね」(伊藤)

「ライフスタイルも多様化しているので、個性的なポーチもご提案しています。特徴的なも

talking member

福岡マンション事業部 (左から順に)

- 伊藤駿吾: 営業/宅地建物取引士/休日は2歳の娘と一緒に遊びに行ったり、お風呂で歌ったり、子どもと楽しく過ごす時間を大切にしています。いつか「お父さんと結婚したい」と言ってもらえるようになります。それが、ささやかな夢です。
- 末崎崇史: 設計/一級建築士/社内外の仲間とトレーニングを楽しんでおり、冬場は糸島市の井原山に登ってからカキ小屋と温泉に寄って帰るのが定番コース。また、最近ジョギングを始めた。10kg減量して入社当時の体型に戻りたいです。
- 市間聡: 営業/宅地建物取引士/趣味は海外旅行。各地に点在する自社物件を見に行くほか、世界各国のモデルルームや中古マンションなどを見て回ります。いわゆる有名建築ではなく、普通の「住まい」を見るのが好きなんです。

のを挙げると、玄関ポーチ前にサイクルポートを設けて趣味部屋のように使えるようにしたり、トランクルーム付きポーチにしてゴルフバッグ・アウトドアグッズなどを収納できるようにしたり「末崎」

「最近では、自分だけの専有空間として使えるプレミアムポーチも増えてきています」(伊藤)
「プレミアムポーチは、三戸に対して1基の2WAYエレベーターを採用することで実現できるスタイルですね(P13図参照)。エレベーターを降りたら、もう自分だけのプライベート空間。個性的な使い方もできるので、わが家への愛着もわくのではないですか」(市間)

「邸」邸プライベートも確保され、個性豊かな住まいが集まったマンション……それこそ究極の「住宅集合」と言ってもいいかもしれません」(伊藤)

「わが家」のちょっと前、 コリドリーの空間演出

コリドーと呼ばれる共用廊下にも、さまざまな工夫が施されているのでしょうか？

「共用廊下のスタイルは大きく二つに分けられます。光や風を身近に感じられる外廊下スタイルと、エントランスホールから続く雰囲気を保ちやすい内廊下スタイル。それぞれにメリットもあれば、何らかの工夫が必要などころもあり、どんなコリドーにするかは、まわりの環境や景観を踏まえて検討しています」(末崎)
「豊かな植栽帯に囲まれて視界が開けた場所に建つマンションであれば、開放的な外廊下スタイルが気持ちいいですね。ただし雨や風が強い日もありますから、アルコーブを深くとったり玄関正面に壁を設けたり、自然環境と上手に付き合うための配慮が必要にな

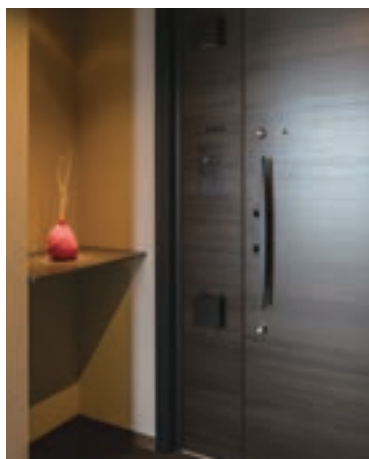
ります」(伊藤)

「GM薬院の場合は、周囲に多くの建物がある都市部のマンションでありながら外廊下スタイルを採用しました。中庭を囲むようなコリドーを形成することにより、まわりからの視線を遮りながらも光や風を取り込めるようにしています。RC打ち放しの庇を設けるなど、外廊下ならではの素材感を活かした玄関ポーチも印象的です(P12写真参照)」(市間)

「外廊下スタイルでは屋外用の仕上げになるため、エントランスやラウンジといった屋内共



マンションの雰囲気に合わせてこだわり抜いた号数表示サイン。写真左は光を効果的に用いたGMザ・大濠、右はレンガ調タイルとアイアンワークが印象的なGM薬院のサイン。(どちらも福岡県)



玄関脇の目につきやすい場所にニッチを設け、季節の花やオブジェ、お気に入りの絵画……何を飾るかは住まい手のアイデア次第、自分らしさを表現するキャンバスとしてお使いいただけます。(GM百道プレイス/福岡県)

常識にとらわれず、ときには逆転の発想も試みて 住まい手の人生をより豊かにするお手伝いができたら。(市間)



「また、マンションでは避難用として階段が必要ですが、通常は目につきにくい場所に設けています。それをあえてデザイン要素として活かしたのが、GMザ・大濠です(P10写真参照)。階段部分を吹き抜けにして上下階を貫くように設置することで、コリドースペース全体に広がりをもたらすことができました」(市間)

これからの時代にふさわしい 玄関ポーチ&コリドーとは

今後取り組んでいきたいことや、温めてくれるアイデアもあるのでしょうか？

「住まい手の暮らしがうかがえる顔として突き詰めて考えていくと、理想の玄関ポーチは、人ひとり異なり、二つとして同じもの



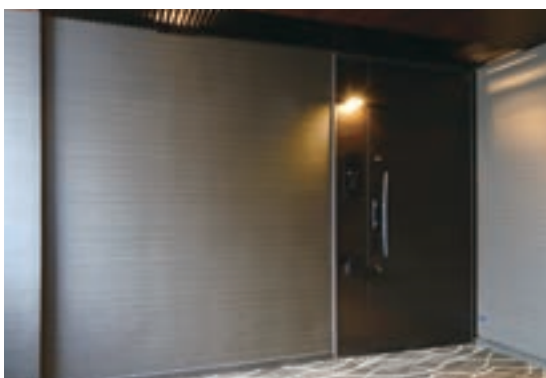
BGMが流れる1階コリドーに面して設けられたサブラウンジ。2つのエントランスから各住戸への動線を踏まえ、どの部屋に住む方にも使いやすい場所に設けました。(GM六本松ザ・テラス/福岡県)

はないのかもしれませんが」(市間)

「オンリーワンの玄関ポーチを目指していくということですね。ただ、これだけ社会が多様化している今、設計の段階でライフスタイルを想定して作り込むというよりは、カスタマイズしやすい余白を残した玄関ポーチを目指す方向になるでしょうね」(末崎)

「玄関ポーチは、デザイン・演出面でも機能面でも、今後さらに進化していく余地があると考えています。利便性の向上という面では、宅配ボックスを二戸二戸につけることができれば便利だね、という話は出てきています」(伊藤)
「それは魅力的ですね。問題はセキュリティ対策です。IoTを活用して遠隔操作で受け取れるようにするといった仕組みができればいいのですが」(末崎)

「コリドーでは、人感センサーを活用して、人



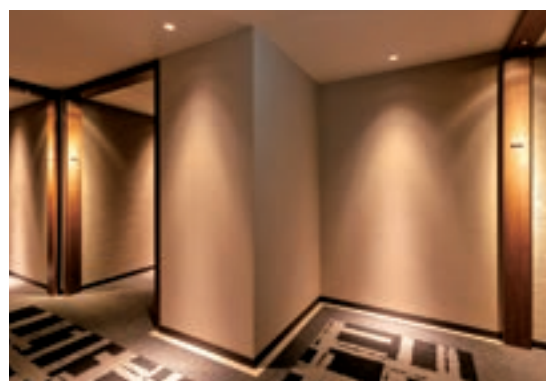
ダウンライトで照らされた玄関ポーチ。写真右側、玄関横にはメーターボックスがありますが、取っ手などの凹凸をなくし、仕上げを壁と統一することで、存在を感じさせません。(GM大濠公園2017/福岡県)

用空間とのつながり感の演出には難しい面もあります。しかしGM薬院のように屋外仕上げならではの質感を活かすなど、工夫次第で魅力的な空間づくりは可能です」(末崎)

「方、内廊下スタイルの場合は仕上げに内装材を使えるので、エントランスの色調を保ち、統一感を持たせやすくなりますね」(伊藤)
「照明も間接照明を取り入れたり調光をきかせたり、自然光に左右されずにコントローラできるのが、ホテルライクな落ち着いた雰囲気演出しやすくなります。ただし、基本的に閉じられた空間となるので音やにおいへの配慮は必要になります」(末崎)

「新しい試みとして、GM六本松ザ・テラスではフロアによってコリドリーのスタイルを使い分けています。お住まいの方の多くが通る1階はエントランスからのイメージを保てる内廊下スタイルにしましたが、まわりの景色もいところなので2階以上は眺望も楽しめる外廊下スタイルを採用しました」(市間)

「より魅力的なコリドーにするためには、内廊

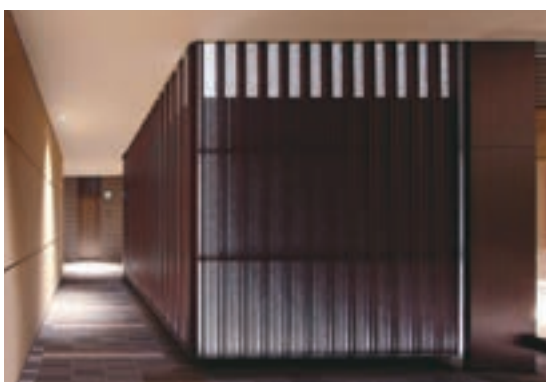


陰影を際立たせてホテルライクな雰囲気仕上げた玄関まわり。明るさや光の向きを入居後にも調整できるよう、調光可能な可動式ダウンライトを採用しています。(GM大濠サウスサイドレジデンス/福岡県)

が近づくにつれて順々に照明が明るくなっていく演出も考えています。光が出迎えてくれるようなイメージです。時間帯によって色温度や照度を変えてもいいと思います」(市間)

「ほかにも、住まう人と街とのつながりを促すような仕掛けもしていきたいですね。絵画や陶芸など、地域の作家さんの作品をコリドーやエレベーターホールに展示している例は、すでにいくつかあります」(末崎)
「アートや文化活動に関心の高いお客様も多くなります。機会を設けたり、玄関ポーチに飾る作品を依頼できたりしてもいいんじゃないでしょうか」(伊藤)

「これまでホテルライクな上質感を一つの理想

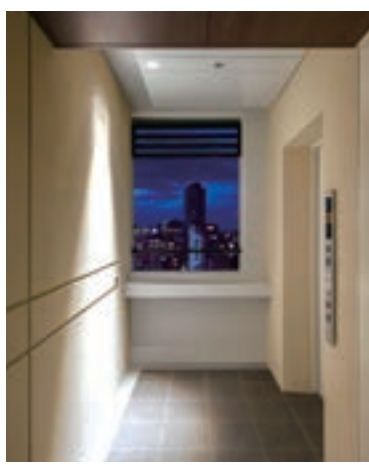


共用廊下にしつらえた、自然光を再現する光壁。朝の爽やかな光から活力あふれる昼の光、そしてゆったりくつろげる夕暮れの灯りへ、色調を変えて1日の時間の流れを演出しています。(GM大濠公園2011/福岡県)

下、外廊下と単純にスタイルを分けるのではなく、両方を組み合わせたり柔軟な発想が必要なんです」(伊藤)

「GM六本松ザ・テラスでは1階のコリドー沿いにサブラウンジも設けています。コリドーに少し大きめのアルコーブを設けることで単調になりがちな空間に変化をつけるという狙いもあります」(市間)

「広がり生まれ、暮らしに彩りを添えることができないんじゃないかと思えます」(末崎)
「コリドーには、そうした意匠性や心地よさはもちろんのこと、安心・安全な暮らしを支えるための機能も求められますね」(伊藤)
「消火栓や火災報知器など、設置が義務づけられているものも多いのですが、ただ置いただけでは空間全体の雰囲気を損ねてしまいます。それらを意識させないようにするのも工夫のしどころです。たとえば消火栓の赤い表示灯は必ず見えるようにしなければいけません。が、まわりの扉の部分は壁のクロスと同じ仕上げにして凹凸もなくすなど、存在を際立たせないようにしています」(末崎)



福岡ヤフオクドームの見えるプレミアムポーチ。内廊下スタイルのような囲われた心地よさがありますが、実は自然を感じられる外廊下です。家の中にも新鮮な空気を取り入れられるよう、玄関脇には換気スリットをつけています。(GM西新プレイス/福岡県)

形としてきましたが、それに加えて芸術や文化の発信といった役割を担っていくということです」(市間)

「住まいは、建物だけで完結するものではありません。住まい手がいてはじめて完成するもの。だからこそ、一人ひとりが自分らしく暮らせるように、ハード面でもソフト面でも環境を整えるお手伝いをしていきたいと考えています」(末崎)

*

今回着目した玄関ポーチ&コリドーは、小さな空間であり、毎日の暮らしの中では特に気にかけることもないでしょう。でもそれは、住まう人の暮らしをイメージして細部まで丁寧に作り込まれているから、気にならないのかもしれません。一度ゆっくりご覧になってみてください。

さあ、お住まいのGMは、どんな顔をしていますか？



ギャラリー空間と一体化して広々とした地下コリドーは、開口部を大きくとり、地下だと感じさせない明るさを確保。歩きながらアートを感じるだけでなく、椅子に座ってゆっくり眺めることもできます。(GM山芦屋/兵庫県)